

仏波へ転電セリ

六八二 十一月二日 在仏国石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

露國勞農政府ノ正式承認ヲ条件トシテ旧債務
支払ヲ承諾セントノ申出ニ関スル仏國新聞論
調報告ノ件

第一五六八号 (十一月四日接受)

十月二十八日附ニテ在倫敦過激派政府代表者カ英國外務省
ニ提出シタル覚書ニ対スル仏國新聞ノ論調ハ共產党若クハ
社会党左派ニ属スル新聞ガ露西亜トノ通商開始ヲ主張セル
行懸上彼ヲ歓迎セル外一般新聞紙ハ冷淡ナル態度ヲ以テ之
ヲ批評セリ

「デバー」曰ク過激派政府ハ其ノ正式ノ政府承認ヲ条件ト
シテ一九一四年以前ノ露西亜債務ノ支払ヲ承諾スト云フモ
開戦以來ノ債務ハ如何ニセントスルヤ又過激派ノ破壊手段
ハ露西亜ノ生産機關ヲ攪亂シ尽セリ彼等ハ如何ニシテ債務

支払ノ法ヲ見出サントスルヤ今日莫斯科政府ノ申込ニ応ズ
ルハ偶々彼等ノ術策ニ陥ルモノナリ云々

「タン」曰ク昨年十一月二十五日附ヲ以テ仏國政府ガ英國
政府ニ送リタル覚書中ニ旧債務ノ承認ハ露西亜トノ通商開
始ノ前提条件ナリト明言シアリ右ノ覚書ハ當時莫斯科政府
ヨリ資本主義者ノ言ヒ草ナリト嘲ケラレタルモ今日ニ至リ
莫斯科政府ハ自ラ債權ノ承諾ヲ申出タリ同政府ハ露國民ニ
旧債務弁済ノ義務ナキコトヲ確信スルモノナルモ単ニ *cession*
トシテ便宜之ヲ承認スルニ止マル旨ヲ声明セリ莫
斯科政府ニシテ真ニ外債支払ノ意思アラバ先ヅ其ノ支払ノ
担保タル可キ財源ヲ提供スルコトヲ要ス然レドモ仏國政府
ハ莫斯科政府正式承認問題ヲ以テ緩漫ナル財政上ノ協定ナ
リト思料セズ莫斯科政府ガ総テノ外債ヲ支払フコトヲ約シ
更ニ民意代表ノ制度ヲ樹立スルニ至ラバ始メテ真面目ニ本
問題ヲ考量スルコトアル可シ云々

事項一五 日本国及勞農露國間国交回復交渉開始問題關係一件

六八三 五月十九日 在瑞典國畑公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

芬蘭出張ノ際ノ勞農政府代表トノ接触ニ関シ
請訓ノ件

第一五〇号 (五月二十日接受)

本使今般「フィンランド」出張ニ際シ同国外交団「リスト」
中ニアル勞農政府全權トハ交通ヲ避ケ可然ヤ *Helsingfors*
Hôtel Sociélé Husel 宛何分ノ義御電訓ヲ請フ

六八四 五月二十五日 内田外務大臣ヨリ
在瑞典國畑公使(芬蘭出張中) 宛
(電報)

芬蘭ニ於ケル勞農政府代表トノ接触振ニ関シ
回訓ノ件

第五五号

貴電第一五〇号ニ関シ

公式ノ交通ヲ避ケラルル方然ルベク若シ先方ヨリ希望セバ
非公式ニ先方ノ話ヲ聴取セラレ差支ナシ尤モ我方ノ態度ヲ

一五 日本国及勞農露國間国交回復交渉開始問題關係一件

「コミット」セザル様御注意アリタシ

六八五 五月二十六日 在波蘭國川上公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

勞農政府外務次官カラハン駐波蘭公使トシテ
来任スベキ趣ニ付同人ヨリ会见ヲ求メ来レル
場合ノ措置ニ関スル件

第一四号 (五月二十八日接受)

五月二十四日本使当国外務大臣ヲ公式訪問シ種々談話ヲ交
ヘ会々對露問題ニ及ヒタルニ付本使ハ当國ニ對スル露國代
表者ニ関シ先般波蘭政府ハ「カラハン」ノ派遣ヲ拒否シタ
ル趣聞及ヒタルカ(往電第五号參照) 其後ノ成行如何ト尋
ネタル処同大臣ハ実ハ波蘭政府ニ於テモ右ニ関シ種々考慮
ノ結果「カラハン」ノ人物経歴ニ徴シ強ヒテ之ヲ拒否スヘ
キモノトモ認メラレザルニ付其後之ヲ受諾スルニ決シ已ニ
其旨莫斯科政府ニ回答セリト答ヘ尚「カラハン」ハ多分此
処二三週間ノ内ニ当地ニ到着スヘク其上通商問題等モ漸次

六八三 六八四 六八五

一五 日本国及労働露国間国交回復交渉開始問題関係一件

六八六 六八七

七〇二

商議セラルルニ至ルヘシト述ヘタリ

就テハ先般北田書記官ヨリ(本電ハ多分在瑞典公使ヨリ貴大臣へ転電済ノコトト思考スルモ念ノ為メ)去ル十一日在「レバル」労働政府代表「スタルク」同官ヲ訪問シ今般「ワルソー」ニ赴任スヘキ「カラハン」ハ日露問題ニ関スル労働政府ノ訓令ヲ有シ居ルニ付当地ニテ本使ト意見ヲ交換セシメタキ旨「チチェリン」ヨリ来信アリタルヲ以テ右日本政府ニ通報方取計ハレタキ旨申出アリタル趣電報ノ次第モアリ旁々「カラハン」愈々当地着ノ上会见ヲ求メタル場合本使ハ非公式ノ方法ニ依リ同人ト面談スヘキ所存ナルニ付左様御含置アリタシ尚之ニ関シ御注意ノ点アラハ予メ御訓示ヲ請フ

瑞典へ転電セリ、英仏独へ転電セリ

註 五月十七日川上公使発内田外務大臣宛電報第五号ヲ省略セリ

六八六 五月三十日 内田外務大臣ヨリ
在波蘭国川上公使宛(電報)

労働政府ノ駐波蘭公使力ラハントノ会谈ニ関
シ回訓ノ件

第八号

好機會ニ乗ジ宜シク東部西比利亞ノ沿海地方一帯ヲ占領シ之ニ其ノ勢力ヲ扶植シ日本海ヲ以テ湖水トナスコト日本永遠ノ策ナルベシトノ趣旨ヲ繰返スヲ常トスルガ右ハ波蘭トシテ将来一億有余ノ大民衆ヲ抱擁スル大露国ノ再現スルハ西方独逸トノ関係ニモ顧ミ実ニ危険極マルコトニシテ日本ガ東方ニ於テ露国ト事ヲ構ヘ之ヲ牽制スルニ依リ其ノ禍ヲ少カラシメントスル底意ナルベシト思考セラル本使ハ之ニ對シ日本ハ別ニ東部西比利亞ニ於テ領土の野心ヲ有スルコト無ク只其ノ切望スル所ハ同地方ノ秩序速ニ回復セラレ日本人ガ自由ニ居住通商シ其ノ富源ヲ開發シ得ルノ状態到来センコトナリト思考スル旨応答シ居レリ

瑞典へ転電セリ

英独仏へ転電セリ

六八八 七月二十九日 在波蘭国川上公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

西欧諸国ガ労働政府ト通商関係開始ノ情勢ニ
鑑ミ我方モ之ト通商開始ヲ可トスル旨稟申ノ
件

第四六号 (七月三十一日八月二日及三日接受)

一五 日本国及労働露国間国交回復交渉開始問題関係一件

貴電第一四号ニ関シ当方ヨリ進ンデ会见ヲ求ムルコトヲ避ケラレタク若シ先方ヨリ希望セバ会见ノ上非公式ニ先方ノ話ヲ聴取セラレ差支ナシ尤モ我方ノ態度ヲ「コンミット」セザル様御注意アリタシ

六八七 六月十日 在波蘭国川上公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

対露政策ニ関スル波蘭有力者ノ意見ニ付報告
ノ件

第二二号 (六月十八日接受)
本使着任以来接触セル当国朝野ノ名士(前外務大臣「サペーハ」「ヴェルサイユ」条約ニ調印セル「ドモフスキー」「テーク」等)ハ何レモ露国ガ百五十年ノ間波蘭ヲ分割領有シテ圧迫ヲ加ヘタルコト日露戦争ニシテ露国ノ勝利ニ帰シタランニハ日本ハ如何ナル憂目ヲ見タルベキヤ東部西比利亞ハ支那ノ衰弱ニ乗ジ露国ノ略奪セルモノナルコト等ヲ述ベ斯卡ル露国ノ再興ハ其ノ隣接国タル我々ニ對シ大ナル禍ナレバ今ノ間ニ露国ヲ幾多ノ小国ニ分裂セシメ置クコト双方ノ利益ナリト日本ハ他日再び到来セザルヤモ計リ難キ此

露国労働政府ハ其成立以来既ニ三年有半ヲ閱スルニ拘ラズ今尚列国ノ承認スルトコロトナラザル理由種々アルベシト雖其主ナルモノヲ挙グレバ
一、同政府ガ共產主義ヲ標榜シテ世界の革命ノ達成ト資本制度ノ顛覆ヲ以テ其政綱トナセルコト
二、同政府ガ旧露国政府ノ締結セル國際条約ヲ無効ト為シ外債ノ償還ヲ肯ゼザリシコト
三、同政府ノ地位薄弱ニシテ永続セザルベシト觀察セラレタルコト

等ニシテ連合国ニトリテハ同政府ガ当時敵国タリシ独逸ト单独講和ヲ為セルコトモ亦大ナル理由ノ一ナリキ故ニ連合国ハ或ハ「エス、エル」ヲ使曠シ或ハ「チェコスロバツク」救援ヲ名トシテ西比利亞ニ出兵シ次デ「コルチャツク」「デニキン」「ペトリューラ」「ウランゲル」等ヲ支持シテ労働政府ノ顛覆ヲ計レリ
然ルニ多年兵乱ノ為ニ疲勞困憊セル露国一般民衆ハ労働政府ノ『平和ト土地』ナル標語ニ酔ヒテ反過激派ノ政綱ニ傾聴スルモノ少ク且内訌排擠ヲ常トシ統一ヲ欠ケル同派ハ到底過激派ノ宣伝ニ敵スル能ハズ連合諸国ノ対露政策ハ一ト

六八八

七〇三

シテ失敗ニ帰セザルモノナク今日ニ於テハ欧亜ヲ通ジテ將來望ヲ嘱スベキ反過激派ト称スベキモノ殆ド絶無ナリ他面政權乗取ノ当時ニ於テ共產主義世界革命ヲ唱道シテ世界ノ政治家ヲ悩マシタル労働政府ハ内国家生活ノ破綻日ニ甚シキト外列国労働者ノ共鳴予期ノ如クナラザル為長ク其所信ヲ固持スルコト能ハズ今日ニ於テハ利権ヲ外国資本家ニ提供シ国内ニ於テハ或程度迄商業ノ自由ヲ認め又銀行業務ヲ復活スル等漸次資本制度ニ復帰セムトシツアリ

歐洲列国モ經濟上ノ理由ト国内労働者ノ圧迫トニ依リ長ク労働政府ト没交渉ナル能ハズ連合國中英國ハ率先シテ同政府トノ通商開始ヲ提議シ客春以來之ニ関スル交渉ヲ開始シ本年三月十六日終ニ之ニ関スル協定ヲ了セリ伊國ハ略英國ト歩調ヲ一ニシ仏國ハ「ウランゲル」ニ未練ヲ殘シタル結果前記協定ニ手後レシタル感アルモ労働政府ニシテ帝政時代ノ債務ヲ認ムルニ於テハ之ト協定ヲ辭セサル模様ナリ

獨逸ハ歐洲戰爭中労働政府ヲ認め之ト平和條約ヲ締結セルモ「ヴェルサイユ」條約中右條約ノ破棄ヲ約シ爾來連合國ノ反對ヲ恐レ表面之ト協定スルヲ避ケ居リシモ前記英露協定後間モ無ク五月六日通商開始ニ関スル取極ニ調印シ從來

ノ在「モスコウ」臨時派遣委員ニ替ヘ近々其ノ代表者ヲ増派セントシツアリ米國政府ハ未ダ労働政府ト協定スルコトナキモ同國人ガ自己ノ危險ニ於テ之ト通商スルコトハ夙ニ許可シ居ルノミナラズ前記英獨ノ對露政策ニシテ更ニ一步ヲ進ムルコトナランカ米國ノ参加ハ蓋シ最モ必要條件タル可ク近時米獨ノ通商復活ノ曙光漸ク顯著ナラントスルニ際シ米國實業家中有力ナル人士ガ此間ニ往來シ更ニ進ンデ對露通商ニ付細心ノ注意ヲ払ヒツアルハ想像ニ難カラズ斯クノ如ク世界ノ大勢ハ労働政府トノ通商開始若クハ其ノ(脱)ニ傾キツツアリト云フ可シ

翻ッテ我國ト露領極東トノ關係ヲ見ルニ西歐諸國ト歐露トノ關係ニ比シ寧ロ独占的ニシテ一層密接ナルモノアリ故ニ我國モ露國ヲ承認スルコトハ暫ク措キ成ル可ク速ニ之ト通商開始ニ関スル協定ヲ為ス可キ必要ヲ認めザル可カラザルナリ而シテ労働政府ノ傀儡タル極東共和國政府ト斯カル協定ヲ為スガ如キハ決シテ策ノ得タルモノニ非ズト思考ス宜シク進ンデ中央労働政府ト直接談判スベク今日迄ノ情報ニ依レバ該政府モ亦深く希望シ居ルモノノ如シ之レ通商ニ関スル協定ヲナスニ當リ労働政府ガ我國ニ對シ適當ナル條件

ノ下ニ撤兵ヲ要求シ且我在留民ノ生命財産ヲ安固ニシ我國ガ既ニ獲得セシ又ハ獲得ス可キ利権ヲ擁護スルノ保証ヲ与フルニ於テハ速ニ撤兵ヲ決行シ或ハ通商開始ノ折衝開始ト同時若クハ其ノ以前ニ於テ非公式ニテモ視察団様ノモノヲ歐露及西比利亞ニ派遣シ先ツ労働治下ノ事情ヲ審ニスルト同時ニ先方當局者トノ「コンタクト」ヲモ附ケ漸次我ニ有利ナル様交通復活ノ素地ヲ作製スベク然ラズンバ局面ノ展開ハ到底期待シ難シ然レバ我國ニ於テ若シ万一ニモ撤兵ヲ不得策トセラルル事情アルニ於テハ我が駐屯軍隊ノ權内ニ於テ名実共ニ備ハレル鞏固ナル政府ヲ確立シ我が旗幟ヲ鮮明ニシテ之ニ徹底の援助ヲ与ヘ以テ過激派ノ東漸ヲ防止スルニ如カザルナリ

由來在外露國人ノ通信ハ悲觀ニ過ギ過激派側ノ宣伝ハ誇張ニ失シ共ニ輕信シ難シト雖諸方面ノ情報ヲ綜合スルニ労働政府ノ地位ハ国内諸工業ノ頽廃ニ加ヘ「ヴォルガ」地方一帯ノ飢饉アル為危機ニ瀕セルコトハ事実ナルモ露国内ニハ現在同政府ヲ措キテ他ニ政府ト認ム可キモノナキノミナラズ且在外反過激派ナルモノハ多クハ論爭ヲ事トシテ互ニ排擠シ協同一致スルコトヲ知ラズ到底労働政府ノ組織的ニシ

テ果斷ナルニ若カズ然レバ將來外國ノ徹底的干渉又ハ飢饉ニ伴フ万一ノ出來事ナキ限り労働政府ハ当分ノ内ハ倒ルルコトナカル可シ万一反倒ルルコトアリトスルモ露國ハ反過激派ノ手ニ歸シ直ニ統一セラルルガ如キコトナカル可ク同國ハ更ニ幾多ノ混沌時代ヲ經過セザル可カラザルニ至ル可シ労働政府ト通商協定ヲナシ又ハ之ヲ承認スルコトヲ以テ極端ナル社會主義ヲ承認スルモノナリトシ其ノ内政上ニ及ボス可キ惡影響ヲ憂慮スルモノナキニ非ザルモ現在ノ労働政府ハ当初ノ主義主張ヲ殆ド放棄セルモノニシテ寧ロ我國民ニ過激社會主義實行不可能ノ實例ヲ示ス好機ニシテ我が為政治家ノ処措宜シキヲ得バ何等憂フルニ足ラザル可シト思考セラル尤モ労働政府ハ外國ニ對シ革命的宣伝ヲ為スコトヲ斷念シタルモノニハ非ザルヲ以テ決シテ油斷スベカラザルハ勿論ナリ

又労働政府承認ノ反對ノ理由ノ一トシテ將來露國人ノ反感ヲ買フベキコトヲ指摘スルモノアルモ労働政府ガ過去將來ニ亘リ其ノ權力下ニ在ル一億有余ノ民衆ニ對シ排日の宣伝ヲ為スノ害ニ想到スレバ在外二百万有余ノ反過激派露國人ガ労働政府ヲ承認シタル為日本ヲ恨ムノ害ノ如キト同日ノ

論ニ非ズ況ンヤ最近在外露国実業家中(「ソウイソツキー」「ズラトポリスキー」「ツェトリン」等)ニモ労働政府トノ妥協ヲ主張シ国内ニ於テモ「ブルガーコフ」「プロコポウイチ」(両氏共「ケレンスキー」ノ仮政府ニ大臣タリ)「ゴロウイン」(第二「デュウマ」議長)等ノ如キ「レーニン」等ト卓ヲ同ジウシテ饑饉地方救済ノ方法ヲ講ジ居ル等漸次妥協ノ兆アルニ於テオヤ

上來記述セル如ク国外ヨリ現在ノ労働政府ヲ倒シテ全ク別個ノ政府ヲ樹立スベキ者ナク而シテ国内ニハ「レーニン」一派ヲ除キ不世出ノ政治家無キモノトセバ近キ将来ニ於テ露国ガ労働政府ノ羈絆ヲ脱シ常態ニ復帰センコトヲ希望スルモ蓋シ樹ニ縁リテ魚ヲ求ムルノ類ノミ今此ノ永続スベキ不安不定ナル期間露国ト全然絶縁シ之ヲ抛棄シテ顧ミズトセバ止ム若シ然ラズシテ苟モ之ト利害ヲ共ニシ更ニ進ンデコノ間ニ処シ列国ニ後レズ我が利権ヲ伸張セント欲セバ帝國政府ニ於テモ今ヤ局面ヲ展開シ労働政府ト交渉ヲ辞セザルノ態度ニ出ヅベキ時ナリト信ズ

在米大使へ転電セリ瑞典並在欧各大使へ郵送セリ

六八九 八月二十九日

在波蘭国川上公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

労働政府ハ日本トノ善隣関係回復ノ為波蘭ニ於テ交渉ヲ開始シ度旨カラハンヨリ申出ノ件

第五八号

(九月一日接受)

露国労働政府代表者「カラハン」当地着任ノコトハ曩ニ電報シ置キタル処ナルガ同人ハ過日来頻リニ本使ト会見シ度旨官川ノ知人ナル波蘭人ヲ介シ申込ミタルニ付予テ御承諾ヲ受ケ居ル儀モアリ会見及談話ノ内容ニ関シテハ相互ニ機密ヲ厳守スルヲ条件トシテ八月廿三日前記波蘭人ノ宅ニテ個人トシテ会見ヲ遂ゲタルニ先方ヨリ大要左ノ通り申出タリ

今ヤ太平洋問題發生シ将来列国ノ関係ニ一新生面ヲ見ントスルニ当リ極東露領ヲ今日ノ如キ状態ニ放棄シ置クコトハ日露兩國ノ為不利益ナルニ付英国其他ノ例ニ倣ヒ日本モ露国ト善隣関係ヲ回復セラレタシ日本ハ由来地狭ク人多シ其海外ニ發展セントスルハ自然ノ趨勢ニシテ之ヲ阻止スベキニアラズ露国ハ地広ク人少ナキヲ以テ寧ロ日本人ノ移住ヲ歓迎スベシ自分ハ労働政府ヨリ閣下ヲ経テ日本ト交渉スルノ権限ヲ与ヘラレ居ルニ付貴国ノ意向如何ニ依リ当地ニ於

テ閣下ト交渉ヲ重ネ双方ノ体面ヲ損セザル程度ニ於テ一ノ仮協約ヲ締結シ度キ考ナリ

露国ノ日本ニ対シ希望スル第一ノ要件ハ撤兵ナリ露領在留ノ日本人ニ対シ生命財産ノ安全ヲ保障スルハ勿論各種ノ利権ヲ提供スルコトモ如何様ニモ協議ニ応ズベク殊ニ漁業条約ノ如キモ此際日本ノ為有利ニ更新改訂シ得可ク「ワンダールIPP」ノ契約ハ既ニ調印済ナルモ右ハ仮協約ニシテ米國ガ労働政府ヲ承認セザル限り効力ヲ生ゼザルモノナルニ付若シ日露間ノ協議此承認以前ニ纏ラバ該協約ヲ取消スコト必ズシモ不可能ナラザルベシ

知多政府ハ近ク大連ニ於テ日本ト協商ヲ開始スルコトト成リ居ル処知多政府ナルモノハ表面独立政府ナルモ全露国民ヲ代表スルノ資格ナシ從ッテ重要問題ニ付テハ総ベテ歐露中央政府ノ承認又ハ訓令ヲ受ケザルベカラザル実情ナリ加フルニ大連ハ日本ノ勢力内ナレバ知多政府ノ代表者ニ取り談判上ノ不便一方ナラザル可シ夫レヨリハ波蘭ナル中立國ニ於テ直接談判ヲ為スコト日露相互ノ為利益ナリト思考ス云々

本使ハ之ニ対シ日本政府ノ意向ハ何等承知セザルモ先方ノ

希望ハ場合ニ依リ之ヲ通知スルコト差支ナカルベシト考ヘラルル旨答ヘタル処「カラハン」ハ本件ニ関シ更ニ具体的内話ヲ為シ度キニ付第三者ノ宅ニアラザル適當ナル場所ト時日ヲ指定センコトヲ求メタリ依テ本使ハ来ル卅日再ビ会見スルコトニ同意シ置ケリ

六九〇 九月二日

在波蘭国川上公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

カラハントノ第二回会見ニ於テ日露国交回復ノ交渉ヲワルソーニ於テ開始シ度旨申出デタルニ付請訓ノ件

第六二号

(九月四日接受)

本使ハ往電第五八号末段予報ノ如ク八月三十一日「カラハン」ト第二回ノ会見ヲ遂ゲタリ同人ハ初会見ノ際ニ為シタル申入ニ対シ何等我方ノ回答ヲ予期セルモノノ如クナリシモ本使ハ先方約束ノ具体的内話ナルモノヲ聴取リタル上何分ノ儀本國政府ニ報告ス可キ所存ナリト挨拶スルヤ同人ハ其後莫斯科ヨリ接到セル報道ニ依レバ松島総領事及島田副領事ハ八月二十五日哈爾濱ニ到着シ之ヨリ大連ニ赴キ同地ニ於テチタ政府ノ外務次官(外務大臣「ユーリン」ハ家事

上ノ都合ニ依リ奉天ヨリチタニ引返セリト落合ヒ意見ノ交換ヲ行フコトナリタル旨ヲ告ゲ且極東共和国ハ「ソヴィエット」共和国ト安危ヲ共ニスルヲ以テ其ノ日本ト談判ニ付莫斯科ト打合ヲ為スコキハ勿論ナリ日露ノ国交ハ極東ニ於ケル些々タル事件ニ依リテ妨害セラルコト無ク一日モ速ニ平和關係ヲ復旧ス可キモノナリト信ズ依テ日本、極東共和国、「ソヴィエット」共和国ハ同時ニ交渉ヲ開始シ三国間ニ蟠レル一切ノ係争問題ヲ解決セザル可カラズ「ソヴィエット」政府ハ斯カル談判ノ場所トシテ特ニ「ワルソ」ヲ希望スルモノナリ極東共和国政府モ之ニ対シ異議無カル可ク又同政府代表者ハ都合ニ依リテハ当初ヨリ談判ニ参加セシムルコト無ク日露両国間ニ於テ重ナル談判ヲ為シタル後形式的ニ招待スルモ可ナルベシ「ワルソ」ヲ以テ談判地ト為スニ於テハ露国ハ日本委員ノ露国ヲ通過シ当地ニ来ルコトニ対シ有ラユル便宜ヲ与フ可ク愈々談判開始トナラバ露国ハ漁業条約通商条約利権問題等ニ関シ交渉ニ応ズベク其ノ代リ日本ハ撤兵ヲ実行シ占領軍ノ与ヘタル損害ヲ賠償シ労働政府ニ反対ナル運動ヲ支持セザルコトヲ約サレ度シト述べ之ニ関スル本使ノ意見ヲ求メタルニ依リ本使

ハ御申出ノ趣ハ取敢エズ本国政府ニ取次グ可キコトヲ約シ且本国政府ノ意向ハ之ヲ付度スルノ限リニ非ザルモ自分一己ノ考トシテハ曩ニ尼港事件ノ如キ重大事件アリ露国側ヨリ特ニ有利ナル条件ヲ提出スルニ非ザレバ日本トシテハ容易ニ露国ノ提議ニ応ズルコト能ハザルヤモ計ラレザル旨ヲ附言シ置ケリ

尚本件ニ関シテハ先方ヘ然ル可ク応答ノ都合モアルニ付何分ノ儀成ル可ク速ニ御回示相成様致シタシ

在米大使ヘ転電シ在欧各大使及在瑞典公使ヘ郵報セリ

六九一 九月二日 在波蘭国川上公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

カラハントノ第二回会見ノ際労働政府ノ内政
外交ニ関シ質問シタルニ対スル同人ノ回答要
領報告ノ件

第六三号 (九月三日接受)

往電第六二号本使「カラハン」第二会見ノ際別項本使ノ質問ニ対シ「カラハン」ノ与ヘタル回答要領左ノ通

(一)労働政府内政方針ノ变化ハ事実ナリヤ

労働政府ハ内政上従来ノ方針ヲ變更シ「スベキユレーシ

ョン」ノ跋扈セザル範圍ニ於テ商業ノ自由ヲ許シ工業殊ニ小規模ノ工業ヲ個人ノ手ニ委ネ食料租税ヲ徴シ家屋所有權ヲ認め土地ノ売買ヲ許サザルモ是ヲ農民ノ所有トナスコトトセリ

(二)旧政府ノ締結セル国際条約ヲ認ムベキヤ

旧政府ノ締結セル国際条約ハ是ヲ破棄シタルモ復活シテ差支ナキモノハ其儘効力ヲ認ム可シ

(三)旧政府ノ外債ヲ認ムベキヤ

外債ハ之ヲ無効ト声明シタルモ關係国ニ於テ正式談判ノ項目トナスニ於テハ敢テ其ノ討議ヲ辞セズ

(四)「ソヴィエット」政府ト「チタ」政府トノ關係如何

「ソヴィエット」政府ハ正式ニ極東共和国ノ独立ヲ承認シ是ト国境鉄道郵便電信等各種ノ条約ヲ締結セリ其ノ領土ハ後貝加爾、「アムール」、沿海、「サハリン」ノ四州ニシテ勘察加州ハ是ニ属セズ但シ兩國ノ利害徹頭徹尾一致スルヲ以テ其ノ外交政策ハ常ニ歩調ヲ一致スルコトトナリ居レリ

(五)「ワンダリッブ」ノ得タル利権ノ内容如何未ダ其ノ内容ヲ通知スル時期ニ非ザルモ一言ニシテ謂ヘバ勘察加州ニ

於テ富源開発ノ独占權ヲ与ヘタルモノナリ但シ其ノ効力ハ米國ノ労働政府承認ニ依リテ發生ス

(六)最近露亜銀行ガ東支鉄道ニ対スル權利ヲ云々スル処労働政府ノ是ニ対スル態度如何

仏国資本家ハ露亜銀行ヲ利用シテ東支鉄道ニ対スル權利ヲ主張セントスルモ労働政府ハ斯カル言分ヲ認ムルコトナカルベシ同鉄道ハ会社ト称スルモ露国々庫ノ布設シタルモノナリ

(七)視察団ノ入露承諾ス可キヤ

相互的ナラバ異議ナシ

米ヘ転電シ在欧各大使及瑞典ヘ郵報セリ

六九二 九月三日 内田外務大臣ヨリ
在波蘭国川上公使宛(電報)

労働政府トノ交渉問題ニ関スル中央ノ方針指
示ノ件

第二二号

貴電第六二二号ニ関シ第四六号貴電御稟申ノ義ハ大体尤モト存セラルルモ極東共和国ノ存立スル以上我方ニ於テハ之ヲ無視シテ直ニ労働政府ト交渉スルヲ得ザル事情モアルニ付

在仏大使ヨリ転電ノ答ナル本大臣宛在米大使宛第三二〇号

電報所載ノ方針ニヨリチタ政府ト交渉ヲ開始セル次第ナリ
尤モ右電報ニモ記載シアル如クチタ政府ト取極成立ノ上ハ
直接若ハ時宜ニヨリ同政府ヲ通シ労働政府ニ交渉シテ其諒
解ヲ求メントスル考ナリ

右不取敢貴官限リノ御含迄

註 後出八四四文書

六九三 九月十一日 在波蘭国川上公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日露国交回復交渉開始方ニ関スルカラハンノ

申出ニ付再請訓ノ件

第六五号 (九月十二日接受)

カラハン第二会見ノ結果(請訓シタル次第ナルモ)未ダ何
等ノ御電訓ニ接セザル処右ハ貴電第二二号ノ趣旨ニ基キ
(措置)シ差支無キヤ至急御電示ヲ乞フ

六九四 九月十三日 内田外務大臣ヨリ
松島政務部長(大連出張中)宛

大正九年四月労働政府極東代表者ヨリ提出ノ

労働政府口上書訳文送付ノ件

附屬書 右訳文
欧一機密第二二二号

「ウイレンスキー」提出ノ労働政府講和条件ニ関スル件
別紙客年四月三十日附在浦塩「サウエート」政府極東代表
者「ウイレンスキー」ヨリ松平政務部長ニ提出セル「サウ
エート」政府口上書写ハ之ニ依リ労働政府ノ意向ヲ窺フニ
足ルモノ有之這回ノ「チタ」側トノ交渉ニ際シ何等御参考
ト可相成ト被思考候ニ付已ニ政務部ノ書類ニ就キ御了知ノ
事トハ存候得共右念ノ為メ茲ニ及御送付候也

(附屬書)

大正九年四月三十日附「ウイレンスキー」ヨリ松平政務部長ニ
提出セル「サウエート」政府ノ口上書訳文

(註¹)
口上書(莫斯科ヨリ伝達)

第一

露西亞政府ハ日本軍ノ露西亞領土ヨリノ撤退ヲ以テ極東ニ
於ケル平和關係設定並相互信用ヲ基礎トシ平和會議開催ニ
有力ナル条件ナリト思惟ス

現今露西亞對聯合側國際關係左ノ如シ

仏蘭西ハ「サウエート」露西亞ト「コペンヘーゲン」ニ於

農政府ノ極東軍備ニ對スル意向ヲ探リタルヲ「ウ」ヨリ日本
側ノ提言ノ如ク想像シ電報セシモノト見ユ

第四

吾人ハ日本カ我内政ニ干涉セス又反革命援助ヲ速ニ停止ス
ヘキ相互の保証ヲ得ムコトヲ希望ス日本ノ反革命援助ハ政
府側ノ声明ニ拘ラス後貝加爾ニ於テ之ヲ繼續シ吾人ハ其ノ
弁駁シ得サル証拠ヲ有ス次テ吾人ハ太平洋岸ニ日本ノ安全
ヲ脅スヘキ惧アル武力ヲ置カサル義務ヲ負フカ為ニ日本政
府モ亦極東ニ於ケル我領土ニ對スル十分ノ保証ヲ与フルニ
異議ヲ申出テサル可キヲ信ス「サウエート」露西亞ニ在留
スル日本人民ハ總則ニ基キ總テノ人民ニ適用スヘキ法規ヲ
遵守スルノ義務ヲ有ス但シ特別協約ニ依リ外國人ニ適用ス
ヘキモノハ之ヲ除ク

第五

「ウイレンスキー」氏電報中ニ記述セル松平氏ノ提言ハ之
ヲ容認シ得ヘシ即日本及朝鮮ノ内政ニ干涉セス太平洋ニ艦
隊ヲ置カス軍備ニ制限ヲ加ヘ且要塞ノ武装解除ヲ行ヒ商港
トスル等ノ保証ヲ与フルコトヲ得尚吾人ハ千九百十九年期
限満了セル漁業協約ヲ日本ト締結セントス

註 松平政務部長ヨリハ何等提言セズ唯「ウ」ト非公式会見中勞

一五 日本国及労働露国間国交回復交渉開始問題關係一件

六九四

七一

因ニ吾人ハ商議地ヲ「オムスク」又ハ「イルクーツク」若

一五 日本国及労働露国間国交回復交渉開始問題関係一件

六九五 六九六

七二二

ハ全然中立地点タル「コペンヘーゲン」ノ如キ地点ニ移サ
ムコトヲ欲ス

千九百二十年四月三十日

サウエート政府極東代表者

註1 日本外交文書大正九年第一冊下巻五八六文書ノ別電第一九
三号参照

2 同右日本外交文書五七九文書附記参看

六九五 九月十六日

内田外務大臣ヨリ
松島政務部長(大連出張中)宛(電報)

カラハンヨリ在波蘭国川上公使ニ対シ日露国

交回復交渉開始方ヲ申出デタル旨通報ノ件

第一八号

在波蘭公使来電ニ依レバ同公使ハ同国駐在労働政府代表者
「カラハン」ノ希望ニ基キ八月末同人ト会见シタルガ其際
同人ハ莫斯科ヨリ接到セル報道ニ依レバ日本知多両政府代
表者大連ニ於テ意見ノ交換ヲ行フコトナリタル旨ヲ告ゲ
極東共和国ハ労働共和国ト安危ヲ共ニスルヲ以テ日本トノ
談判ニ関シテモ莫斯科ト打合ヲ為スベキハ勿論ナリ日露ノ
国交ハ極東ニ於ケル些々タル事件ニ依リテ妨害セラルルコ

第一九号

往電第一八号ニ関シ右会见ノ際「カラハン」ハ川上公使ノ
質問ニ答ヘ左ノ如ク語リタル由御参考マデ

(一)労働政府ハ従来ノ方針ヲ変更シ投機ノ横行セサル範囲内
ニ於テ商業ノ自由ヲ許シ工業殊ニ小規模ノ工業ヲ個人ノ手
ニ委ネ食料及租税ヲ徴シ家屋所有権ヲ認め土地ノ売買ヲ許
ササルモ是ヲ農民ノ所有トナスコトセリ

(二)旧政府ノ締結セル国際条約ハ之ヲ破棄シタルモ復活シテ
差支ナキモノハ其儘効力ヲ認め可シ

(三)外債ハ之ヲ無効ト声明シタルモ関係国ニ於テ正式談判ノ
項目ト為スニ於テハ敢テ討議ヲ辞セス

(四)極東共和国ハ「ソヴィエツト」政府正式ニ之カ独立ヲ承
認シ之ト国境鉄道郵便電信各種ノ条約ヲ締結セリ其領土ハ
後貝加爾「アムール」沿海「サハリン」ノ四州ニシテ勘察
加州ハ之ニ属セス但シ両国ノ利害一致スルヲ以テ其外交政
策ハ常ニ歩調ヲ一ニスルコトナリ居レリ

(五)「ヴァンダーリップ」ノ利権ハ勘察加州ニ於テ富源開発
ノ独占権ヲ与ヘタルモノナルカ其効力発生ハ米国ノ労働政
府承認ヲ条件トス

一五 日本国及労働露国間国交回復交渉開始問題関係一件

トナク一日モ速カニ平和関係ヲ復旧スベキモノト信ズ依テ
日本極東共和国及労働共和国間ニ同時ニ「ワルソー」ニ於
テ交渉ヲ開始シ三国間ニ蟠レル係争問題ヲ解決セムコトヲ
希望ス右ハ齊多政府モ異議ナカルベク或ハ此際日本労働兩
政府間ニ主要ナル談判ヲ為シタル後形式的ニ知多代表者ヲ
招請スルモ可ナルベシ談判開始ノ晩ハ露国ハ漁業条約通商
条約利権問題等ニ関シ交渉ニ応ズ可ク其代リ日本ハ撤兵ヲ
実行シ占領軍ノ与ヘタル損害ヲ賠償シ労働政府ニ反対ナル
運動ヲ支持セザルコトヲ約サレ度シト述ベタルニ対シ同公
使ハ右申出ノ趣旨ハ本国政府ニ取次グコトヲ約シ且ツ一己
ノ考トシテハ尼港事件ノ如キ重大事件モアリ露国側ヨリ有
利ナル条件ヲ提出スルニ非ザレバ日本ハ容易ニ提議ニ応ズ
ル能ハザルヤモ計リ難キ旨附言シタル趣ナリ右直接交渉ニ
関スル「カラハン」ノ督促ニ対シテハ差シ当リ之ニ応ゼシ
メザル積リナリ

六九六 九月十六日

内田外務大臣ヨリ
松島政務部長(大連出張中)宛(電報)

カラハンガ川上公使トノ会见ノ際語リタル労働

農政府ノ内政外交ノ方針ニ付通報ノ件

(六)仏国資本家ハ露重銀行ヲ利用シテ東支鉄道ニ対スル權利
ヲ主張セントスルモ労働政府ハ斯カル主張ヲ認めムルコトナ
カルヘシ東支鉄道ハ会社ト称スルモ露国々庫ノ布設シタル
モノナリ

(七)視察団ノ入国ハ相互的ナラハ承諾スヘシ

六九七 九月二十一日

内田外務大臣ヨリ
在波蘭国川上公使宛(電報)

日露国交回復交渉開始方ニ関スルカラハン申

出ニ対スル回答振回訓ノ件

第二三号

貴電第六五号ニ関シ貴官ハ往電第二二号ノ趣旨ハ貴官限り
ノ御含トシ先方ニ対シテハ我方ハ諸種ノ事情ニヨリ極東共
和国ト交渉スルモノナルガ追而適當ノ時期ニ於テ労働政府
ト直接又ハチタ政府ヲ介シテ交渉スルコトアルヤモ計ラレ
ザルモ目下其時機ニアラザル旨可然回答セラレタシ

六九八 九月二十三日

在波蘭国川上公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日露国交回復交渉開始問題ニ対スル我方ノ態

度ヲカラハンニ説明ノ件

六九七 六九八

七二三

第七九号

(九月二十四日接受)

九月二十二日日本使ハ更ニ「カラハン」ト会見シ先方ノ予テノ申出ニ対シ貴電第二二号御訓令ノ趣旨ニ基キ挨拶シタルニ同人ハ不満足ナガラ之ヲ了解シ且極東共和国政府ハ撤兵ダケニ関スル取極ナラバ単独ニテ調印スルヲ得ベキモ他ノ政治上經濟上重大ナル問題ニ至リテハ一トシテ莫斯科政府ノ同意ヲ解ラ經ザレバ単独ニテ決定シ得ザル故ニ今回大連ニ於テ行ハルベキ日本ト極東共和国トノ談判ハ果シテ成立スベキヤ否ヤヲ疑フ旨ヲ述ベ引下レリ

六九九 十二月十七日

在波蘭国川上公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日露国交回復ニ関スル日置駐独大使トノ会談

模様ニ付カラハンヨリ内話アリタル件

第一一六号

(十二月十九日接受)

本使発在独大使宛電報第七四号

十二月十五日「カラハン」ハ非公式ニ本使ニ会見ヲ求メタルガ其内話ニ拠レバ同人病痼療養ノ為貴地滞在中十二月七日閣下ニ面談ノ機会ヲ得去ル八月本使ニ対シ申出デタルト同様ノ趣旨(大臣宛本使発往電第五八号及往電第六二号参

照)ヲ申入レタルニ閣下ニ於テハ個人ノ意見トシテ日本ガ将来労働政府ト談判スル場合ノ条件ヲ假定スレバ労働政府ハ少クトモ川上公使ニ提議セル漁業条約ノ改訂通商条約利権譲与問題等ノ外ニ

一、共產主義ノ「プロバガンダ」ヲ止メ

二、尼港事件ノ賠償ヲ為シ

三、旧債ヲ承認シ

四、戦時公債ヲ承認シ

五、在露邦人ニ対シ生命財産ノ安全ヲ保障セザルベカラズト思考セラルル旨応答セラレ「カラハン」ハ之ニ対シ第一項ニ関シテハ相互ニ他方ノ内政ニ干渉セザルコトトシテ同意スベク第二項ニ関シテハ該事件ガ正規軍ニアラザル「パルチザン」ノ行為ニシテ直接労働政府ノ責任ニアラザルコト且日本ノ正規軍ガ西比利亞各地ニ於テ農村ヲ焼キ住民ヲ殺戮セル事実明白ナルコトニ鑑ミ相互ニ軍事行動ヨリ発生セル損害ヲ精算スルコトトシテ本件ヲ議シタク第三項ニ関シテハ曩ニ「チチェリン」ノ声明セル通ナルモ第四項ニ関シテハ一般的ニ之ヲ承認スルコトハ他国トノ関係ニ於テ労働政府ニトリ重大ナル結果ヲ生ムモノナルニ付遽ニ応ジ難

キモ日本ノ分丈ナラバ財政協議ノ名目ノ下ニ日本ノ要求ヲ考量スルコトト致シタク第五項ニ関シテハ全然同意ナルコトヲ述ベ且本件ニ関シ日本政府ニ電報シ訓令ヲ求メラレタキ旨申出デ閣下ニ於テハ之ヲ承認セラレ何等本国政府ヨリ回答アリ次第本使ヲ經テ同人ニ伝達スベキ旨御約束アリタルヤニテ右回答ハ成ルベク十二月二十日頃迄ニ承知シタキ旨閣下ニ照会方依頼アリタリ
大臣へ転電シ在欧各大使瑞典郵送

七〇〇 十二月十七日

在波蘭国川上公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日露国交回復交渉開始ノ基礎条件ニ関スル日

本政府ノ考ヲ承知シ度旨及交渉地ノ希望ニ付

カラハン談話ノ件

第一一八号

(十二月十八日接受)

「カラハン」ハ在独大使宛本使発電報第七四号ノ用談ヲ為シタル後更ニ次ノ談話ヲ為セリ

自分ハ十二月二十日ヨリ莫斯科ニ開催セラルヘキ全露労兵(不明)ニ出席ノ為来ル二十日出発帰国ノ筈ナルカ日本政府ニ於テ曩ニ閣下ニ申出テタル事項以外日置大使カ私見ト

ル感想ニ依レハ労働露政府カ此際我国ト直接談判ヲ切望シ居ルコト勿論ナルヘキモ「カラハン」モ亦日露談判ノ衝ニ当ラムトスル個人の野心ヲ有スルモノノ如シ
在欧各大使、瑞典ニ郵送ス

七〇一 十二月二十二日 在独国日置大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日露国交回復交渉開始問題ニ付カラハント会
談ノ要領報告及意見稟申ノ件

第二六九号

(十二月二十四日接受)

数日前「マルツァン」ノ午餐ニ招カレタルガ同席ニ「カラハン」在リ右ハ予テ「カ」ニ於テ本使ニ面会致度シト申居リシ由聞キ居タルコトアルニ付内々「マルツァン」ノ斡旋ニ依ルモノト思考ス同席上ニ於ケル会谈ノ要領左ノ通
「カ」ハ先ヅ主人ニ向ヒ華府會議ニ露独両国ガ招請セラレザルコトヲ非難シ東洋ニ対シ重大ナル利害關係ヲ有スル露国ヲ除外シテハ到底満足ナル結果ヲ得ル能ハズ露国政府ハ今ヤ債務ヲ承認シタルヲ以テ列国トノ關係ハ復活セラレタルモノナリト云ヘルニ付本使ハ該債務承認ハ一部ナルヤニ承知セルガ如何ト問ヒタルニ

トニ努メザルヤ英国ノ如キハ既ニ条約ヲ締結セルコトハ御承知ノコトナルベシ

本使、列国ノ復興ニ露国ノ参加ハ必要ナルモ露国復興ノ為列国ノ参加ヲ要スルコトハ一層切ナルモノアラン英国トノ条約ハ単ニ通商ニ関スルモノナリト承知ス列国トテモ強ヒテ露国トノ關係復旧ヲ拒否スルモノニ非ザルベキモ労働露府ノ如ク国家從來ノ基礎ヲ根本的ニ打破シ内ニ在リテハ人類ノ歴史ニ當テ其比類ヲ見ザル殘虐非道ノ状態ヲ現出シ外ニ対シテハ勝手ニ条約ヲ破棄シ他国ノ權利ヲ蹂躪シ剩ヘ他国ノ内政迄ニ干渉シテ所謂世界革命ノ成功ヲ実行セントスルニ於テ如何ニシテ列国之ニ近ヅクコトヲ得ベキヤ
「カ」、他国ノ内政干渉ハ相互的ナリ列国モ労働露政府ヲ倒サントセルガ故ニ露国政府モ之ニ對抗セシナリ
本使、露政府ノ干渉ハ攻撃的ニシテ列国ノ行動ハ自衛的ナリ

「カ」、然シ他国ノ干渉ハ最早止メタリ

本使、英国外相ガ内政不干渉ノ約束ニ違反セル行為アリタリト露国ニ対シ抗議セルハ近日ノコトナリ

「カ」、英外相ノ抗議ニハ二ノ原因アリ第一ハ「カーゾン」

一五 日本国及労働露国間国交回復交渉開始問題関係一件

「カ」、然リ戦前ノ債務ノミニナリ戦争中ノ債務ニ付テハ露国ガ戦勝ノ利益ニ均霑セザルヲ以テ之ヲ承認セザレドモ右ハ尚協議ノ余地アリ

本使、労働露政府ガ露国ノ政府タル以上前政府ノ有セシ一切ノ權利義務ハ完全ニ之ヲ継承スベキハ当然ナリ戦勝ノ利益均霑ハ自ラ別問題ナリ余ハ露政府ガ本問題ニ付未ダ何等交渉ヲ試ミタルコト又ハ試ミントスルノ意思ヲ有スルコトヲ聞カズ唯自分トシテハ聯合國ト離レ途中ニテ敵国ト单独講和ヲ結ビ一時戦局ヲ著シク危殆ニ陥ラシメタル露国ハ戦勝利益(脱)アリヤ否ヤハ頗ル疑ハシト思フ翻ッテ労働露政府ノ出現ハ一ニ戦争ノ余勢ニ帰スルヲ得トセバ労働露政府トシテハ之ヲ以テ戦勝ノ利益ニ参加スルヨリモ遙ニ大ナル利益ヲ得タルモノト見ルヲ当然トス而シテ労働露政府ハ戦争中ノ債務ニ関シ列国ト今後協議ヲ為サントノ意向ナリヤ

「カ」、列国聯合會議ハ害有ッテ益ナキコトハ「ヴェルサイユ」會議ノ跡ニ徴シテ明カナレバ政府ノ承認ヲ宣言セル債務ニ関シテハ国別ニ之ヲ行フベシ然シ戦争中ノ債務ニ関シテハ茲ニ何等謂フコトヲ得ズ兎ニ角世界ノ復興ニハ露国ノ参加ハ必要ナリ日本ハ何故ニ露国トノ關係ヲ復旧スルコ

ト「ロイドジョージ」(脱)後者ノナシタル(脱)セントスルコトニシテ第二ハ或人ガ外相ニ対シ誤報ヲ伝ヘタルガ故ニシテ該誤報者ハ之ガ為遂ニ其地位ヲ失ヘリ

本使、抗議ノ事実ハ公表セラレタルモ其他ノ事実ハ何等発表ヲ見ズ

「カ」、目今日本政府ハ大連ニ於テ「チタ」政府ト談判中ナルモ到底何等ノ結果ヲモ見ザルベシ「チタ」政府ハ必ズシモ莫斯科政府ニ隸屬セザルモ西比利亞ハ露西亜ノ重要ナル一部ナルハ恰モ「ババリア」ガ独逸ノ一部タルト同一ノ關係ニアリ莫斯科政府ノ承認ヲ經ズシテ「チタ」政府ガ獨立ニ重要問題ヲ裁決シ能ハザルハ明瞭ナル道理ナリ日本政府ハ寧ロ直接ニ莫斯科政府ト談判スルヲ可トス

本使、獨立ナル「チタ」政府ハ莫斯科政府ノ命令ヲ遵守スベキヤ

「カ」、波蘭政府ガ仏国政府ノ命令ヲ聞キツツアルニ非ズヤ莫斯科ト「チタ」トノ關係ハ決シテ波仏ノ關係ノ如キモノニ非ズ

本使、日本直接ノ關係ハ「チタ」政府ニアリ「チタ」政府ガ莫斯科政府ト獨立タル以上「チタ」ト談判スルコト当然

ナリ

「カ」、貴説一応ハ尤モナレドモ其実効無キコト余ノ敢テ断言スル所ナリ莫斯科政府ハ日露關係ノ速ニ恢復センコトヲ希望シ日本（脱）撤兵ト内政不干渉ヲ承諾スルニ於テハ露国ハ日本ノ需要ヲ善ク了解スルガ故ニ漁業其他利権ノ讓渡ニ依リ日本ヲ満足セシムルコトヲ得ベシ

本使、余ハ日本政府ガ基礎条件ノ上ニテ談判ヲ開キ得ルヤヲ知ラズ又自分一個トシテモ別ニ本問題ニ付研究シタルコト無キヲ以テ之ニ関シ適當ノ意見ヲ述ブルコト能ハザルモ唯今話ニ連レ腦裏ニ浮ビ来レル一二ノ点ヲ挙ゲ（脱）事項ニ対シ露国ノ予諾ヲ得ルニ非ザレバ到底談判開始ハ不可能ナリ

一、宣伝ノ絶対禁止

二、尼港虐殺事件ノ全責任承認

三、既得權利ノ尊重並ニ其侵害ニ依ル損害賠償

四、一切ノ債務承認

五、我居留民ノ生命財産ノ保護ニ関スル完全ナル保障

實際ニ至ラバ尚多クノ重要問題アルベキモ今自分ガ咄嗟ノ間ニ抽象的ニ考フル所ニテハ少クトモ前記基礎条件ノ上ニ

アラザレバ到底談判ノ開始ハ不可能ナラン

「カ」、尼港事件ハ極メテ複雑ナル事件ナリ何トナレバ右ハ日本出兵ノ為ニ起リタル事件ナレバ日本ニ於テモ其責任アリ且日本出兵ノ為ニ露国ニ与ヘタル損害頗ル大ナルモノアリ之等ハ談判ノ上双方満足ノ結果ニ到達スベシト考フ

本使、露国ハ日本ノ出兵ニ対シ損害賠償ヲ提起シ尼港虐殺ノ如キモ之ト相殺セントスル意ナルカ

「カ」、必ズシモ然ラズ他ノ重要ナル問題ハ抽象的ニ論ジ難シ然シ以上ノ条件ヲ承諾セバ日本政府ハ談判開始ヲ承諾スベキヤ

本使、日本政府ノ意向ハ予ニ於テ全然承知セズ又漫リニ付度スベキコトニモアラズ殊ニ談判ヲ開始スベキヤ否ヤニ至リテハ条件以外ニ時機及各国ノ關係ヲモ考量セザルベカラザルヲ以テ仮ニ基礎条件ニ対シ満足スルトシテモ實際ニ談判開始ノコトハ自ラ別問題ナリ

「カ」、右ニ関シ日本政府ノ意向ヲ確メ呉レラルコト出来得ベキヤ

本使、予ハ斯ル問題ヲ担任シ居ラズ從ツテ之ニ関シ日本政府ノ意見ヲ自分ヨリ問合スコト不可能ナリ但シ自分ハ偶然

貴君ニ出会シスル私談ヲ試ミタルヲ申送ルベシ万一帝国政府ヨリ何等申来ルコトモアラバ川上公使ヲ經テ伝達スベシ「カ」、自分ハ日本トノ關係ヲ可成速ニ回復シ度シト考フ十二月二十日ニ莫斯科ニ「ソヴィエツト」大会アリ之ニ出席ノ為帰露スベキニ付其前ニ日本政府ノ意見ヲ聞クヲ得バ幸甚

本使、予ハ政府ガ之ニ関シ何等申来ルベキヲ保セズ仮令之アリトスルモ目下ノ場合急速ノコトニハアラザルベシト信ズ

「カ」、若シ談判ヲ開クトセバ波蘭ヲ可トスルカ伯林ヲ可トスルカ將又莫斯科ヲ可トスルカ

本使、自分ノ意見トシテハ莫斯科ハ不可若シ歐洲ニ於テ開クトシテ貴君ガ委員ニ当ラルルトセバ波蘭ノ方可ナラン云云

以上ハ（脱）ノ要領ナルガ「カ」ガ日本トノ關係回復ニ頗ル熱心ナルコトハ嘗テハ川上公使ノ門ヲ叩キ又這般病氣保養旅行中本使ト面会ノ機會ヲ作りテ之ヲ力説セル事実ニ徴シテ明ナルモ右ハ莫斯科政府ノ命ヲ奉ジテ活動シ居ルモノナルカ將又自分ノ功名心ニ驅ラレ居ルモノナルカハ到底判

然セズ寧ロ後者ニアラザルカトノ感想ヲ与ヘタリ然ルニ同人ノ談話ニ関シテハ嘗テ川上公使ノ上申ニ対シ御訓令ノ次第モアリ卑見ニ依レバ今日露国ト国交回復ノ談判尚早ト思考スルノミナラズ英國ハ条約ノ不履行ニ対シ莫斯科政府ヲ責メ丁抹ハ嘗テ締結セル通商条約ヲ破棄シ米國ハ依然トシテ労働政府ニ反対シ居ル際ナレバ日本独リ復旧ノ行動ヲ執ルニモ及ブ間敷カト認メラルルモ今ヤ歐洲再興ノ機運追々開展シツツアルヲ以テ露国問題モ近ク協議ニ上ルコトアルベキニ付之ニ対シ予メ準備ヲナスト同時ニ莫斯科政府ヲシテ徒ラニ我ヲ嫌惡セシムルコト何レニシテモ不得策ナレバ「カラハン」ノ斡旋ニ対シテハ川上公使ヲシテ程ヨク応待セシメ置ク方可ナラン

波蘭瑞典及在歐米各大使ヘ郵報セリ